流通とＳＣ・私の視点

2009 年 1 月 10 日

視点(1023)　　経済の循環と流通経済の関係とは(その１)!!

経済と景気は切っても切れない関係にあります。好不況のくり返し(循環)の中で、経済が形成されています。

私は、各種の論文(日経新聞の「大機小機」、「ゼミナール」、「世界この先・サバイバビリティ」)を参考にしながら、私なりに景気の循環論を「流通経済」(経済を流通の視点から解明)の視点からまとめると次の通りです(六車流：流通理論)。

経済(景気)循環		内　　容
第１の経済循環	超マクロの経済循環	コンドラチェフ循環であり、景気の波動は 47～60 年で循環しているとの理論
第２の経済循環	マクロの経済循環	各国の景気循環現象
第３の経済循環	セミマクロの経済循環	流通の業態のライフサイクルや生活者のライフステージの循環
第４の経済循環	ミクロの経済循環	流通企業の独自経営業績循環や商品の流行トレンドの循環

（１）超マクロの経済循環(第１の経済循環)

コンドラチェフ(ロシアの経済学者)の景気の波動理論に基づいて、超マクロの経済循環を説明します(日経新聞の大機小機 2009 年１月７日号を参考に作成しました)。

明治維新以来５回目の世界経済の大変化(好況と不況の長期波動)がありました。その内容は次の通りです。

	バブル経済の崩壊時点	経済変化の期間	バブル経済の崩壊の名称	バブル経済崩壊に起こった経済革命		経済のメカニズム
第１回目	1873 年	－	米国の鉄道建設バブル	電話機による通信革命	欧米型の肉食動物経済	東インド会社ができた 400 年前からの国外に市場を求めて拡大する経済システムであり、ベトナム戦争の終結が近づき、欧米型の成長のメカニズムのピークは 1974 年に迎えた。
第２回目	1907 年	34 年 (1873 年～1907 年)	金融恐慌	Ｔ型ﾌｫｰﾄﾞによる輸送革命		
第３回目	1929 年	22 年 (1907 年～1929 年)	世界大恐慌	合成樹脂による素材革命		
第４回目	1973 年	44 年 (1929 年～1973 年)	石油ｼｮｯｸ	ＩＴによる情報革命	過渡期の資産価値の経済	1974 年以降の経済の成長の源泉は資産価格の上昇にあり、資産価格の上昇はコントロールできないために崩壊した。
第５回目	2008 年	35 年 (1973 年～2008 年)	アメリカ投機バブル崩壊	環境改善によるグリーン革命		
第６回目	2042 年(？)	35 年(？) (2008 年～2042 年)(？)	？	？	アジア型の草食動物経済	景気が回復しても生活水準が改善できない時代を迎える。国内の自己再生型経済の確立が必要となる。また、情報は消費するが、モノは持たない社会が定着する。

(流通とＳＣ・私の視点 1024 へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社[3]
代　表　六(むつ)　車(ぐるま)　秀　之

Copyright (C) 1993-2009 Dynamic Marketing Co.,Ltd. All rights reserved.